

グレート・ベースン遠征登山

(2007年6月の記録)

高田忠雄

日程：2007年6月23日(土)～7月2日(月)(10日間)

参加者：井口紀子、酒井志乃、坂浦美佐子(東京野歩路会)、高田長一、高田忠雄(彷徨倶楽部)

アメリカ合衆国のカリフォルニア/ネバダ/ユタ州の地平線を遮る山々～。広大なグレート・ベースン区域の6つのナショナルパーク・トレッキングや散策、観光、3つのピークハント登山を目指しての旅。ラスベガスから陸路レンタカーでの移動～広大なアメリカ大陸の長距離ドライブ・ビール・バーボン・ステーキの楽しみも～。地平線を遮る山々と岩壁、高原、荒野、砂漠、森林、レイク、蒼い空等、延々と続く直線ハイウェイ～大きなアメリカの自然を満喫した。



グレートベースン

6月22日(金)～6月23日(土)

梅田バスターミナル --- 成田空港 --- ロスアンゼルス空港 --- ラスベガス空港 --- モスキュート(泊)

成田空港で昼食は「そじ坊」。そば大盛と生ビール。13時頃関東グループと合流。フライト予定時刻15:55が18:05へと大幅遅れの標示が出ていた。ラスベガスでの乗り継ぎや行程が気になりとなるが仕方がない。搭乗手続きの時もロスアンゼルスからラスベガスへの航空チケットは貰えなかった。17:00搭乗ゲートへ。ここでも待たされ19:00ようやくのフライト。機内の酒類サービスはなく、持ち込みも出来ないから何の楽しみもない。ペプシと親子丼の夕食。ジェット振動が気になり眠剤を飲んで眠った。

12:30(6月23日)ロス空港着。約2時間30分の遅れ。14:30ラスベガスへの搭乗手続きを終え15:30フライト。17:00、やっとのことでラスベガス空港に着いた。18:00、バスでレンタカー会社へ。遅くなったことから今日の宿泊地をセントジョーンズからモスキュートに変更。マーケットに寄り21:00モーターへ入った。自炊で、ビール・チキン・野菜サラダ等の夕食で「ホ～っこりした」。長いなが～い一日やった。疲れも感じ日付けが変わる前に「おやすみ！」

6月24日(日)晴

モスキュート --- ザイオン国立公園【ナローズ渓谷遊行】--- ミュージアム --- カナブ --- グランドキャニオン国立公園【グランドキャニオン散策】--- カナブ(泊)



ナローズ

5:30起床、朝食。7:00モーター出発。8:30ザイオン国立公園。シャトルバスで岩峰に囲まれた公園内を散策。9:30ナローズ渓谷(公園の中心を貫くバージン川に侵食された渓谷)歩きスタート。広い川幅で流れも穏やか。大人に子供、老若男女沢山のアメリカ人がいろんな服装で川に入っている。深さは膝下くらい。川底は石もあれば砂地もあって、川上に向かって流れに逆らって歩くので少々歩きづらいが、水の感触が気持ちよく楽しい。上流に向かう程に、

時に腰近くまでの深み大小の石に足が取られそうになる。ウエストテンプル、エンジェルスランディング、世界最大級の一枚岩グレートホワイトストーンなどが両岸に高く切れ上がり並ぶ。

ハイライトは渓谷の奥にあるナローズで、300メートルもの高さの岩壁が川を挟んで垂直に聳え立っている。狭いところでは、幅わずか6メートルまで接近しているそう。水流の侵食や風化で作られた大自然の凄い景観を満喫。10:45、中間点で休憩。まだまだ先へ行きたいのだが、11:00、私達はここから引き返すことに。今度は川下に歩くので楽だが、時に流れに押されてバランスを崩して「ドボンッ!」歓声や「ハロー」「こんにちは!」「ジャパーン?」「グッドエンジョイ!」などと声をかけ(られ)ながら楽しく歩き12:15にスタート地点に戻った。12:30シャトルバス。13:00ミュージアム。13:15、国立公園を出発。15:00、カナブの町に着き、まずモーターに入った。

16:00、グランドキャニオン国立公園へ向かう。コロラド川が、数億年という途方もない時間をかけて大地を削り、造り上げた大渓谷グランドキャニオン。圧倒的なスケールを目の当たりにして、人智を超えた地球の営みにただ驚くしかなかった。リム(崖のふち)から見下ろす大渓谷は大自然の芸術だった。夕日が沈むにつれて表情を変えていく景観は素晴らしく、光と影の織りなす絶景だった。これが「かの有名なグランドキャニオンやったんか!!」大自然の芸術に感動し、この時のビールの味は最高やった!!多分ここでビールを飲んだ不心得者は、世界で私だけやろうなあ。19:00、夕日が沈み暗くなってきたので散策を終わり、20:40カナブに戻った。

6月25日(月)晴

カナブ --- 【ブライスカニオン国立公園・トレッキング/ビジターセンター】

--- リバーシティ --- イーリ(泊)

4:00起床、朝食。5:20、カナブ出発。7:00、ブライスカニオン国立公園に入る。赤茶色が多いが、色も形もさまざまな奇岩、尖塔の群に圧倒される。断崖の上から眺めているだけでも自然のなせる技に強烈な印象を受けた。バスや小型飛行機ツアーが主流だが、私達はトレッキングでこの奇岩、尖塔群の中に立ち入って何度も見上げながら歩き、その迫力を実感した。乾燥していて快適なトレッキングだった。園内には、サンライズポイント、サンセットポイント、ブライスポイントとかがあり、まさに絶景であった。



ブライスカニオン国立公園

10:15、ブライスカニオンを出発。11:30、リバーシティで昼食。15:00、イーリの町に到着。マーケットに寄って17:00モーターに入った。町の芝生の公園で夕食。アメリカン・ステーキとビールが良く合って満腹。モーターに戻りシャワー後、早々に就寝。

6月26日(火)晴



ホイラーピーク

イーリ --- 【ホイラーピーク(3,982メートル)登山】 --- トンパ(泊)

4:30起床、朝食。5:30、出発。6:45、森に囲まれた登山駐車場着。7:00出発。ヒンヤリした高く大きな森林の中を緩やかに登っていくと、次第に樹木は細く低くなって、7:30小さなレイク(湖)に着いた。静けさとレイクと草原と針葉樹と山~よく額入の油絵にある風景だ。少し戻って、もとの道をゆっくり登るにつれ木はさらに細く少なくなって草原が広がって来た。足元には、いろいろな色の小さな花が地を這う

様に咲いていて、ちょうど大台ヶ原を歩いている感じ。ひと丘越えると樹木も疎らで視界が広がり、木の少ない草原状の山々が連なり、さらに遠くには岩稜の山が荒々しく続く。

9:00 森林限界に出たところで、標高は3,500メートル位。目前に、平たい岩や石を、敷き詰めた様な、積み上げた様な、ホイラーピークが現れた。かなりの急登である。見上げると岩と石だけが、所々に白く小さな残雪が～。ジグザグに登山道は、はっきりしていた。眩しい太陽を浴びながら、乾燥した空気に包まれ、ちょっと酸素が薄くなってきたかなあ～と感じながらゆっくり登り続けて、11:00 急に平らになったところが山頂だった。すぐ左方にもう1つピークがあった。山頂部は広くて残雪も多く、その雪は日本の様に汚れていなくて、その白さはキラキラと、まばゆいばかりの真っ白さが印象的だった。その先は稜線が連なり、片側からは登れそうだが反対側は断崖絶壁。真蒼な空、眼下の森林やレイクや高原～果てしなく続く砂漠や山々～全部いっしょくたんに360度の大大パノラマを満喫して、惜しむかな～11:45 下山。



ホイラーピーク山頂

12:30、途中3,700メートル地点で簡単な昼食。蒼空に積石と岩が突き立つ様な山容を何度も振り返りながら下って、草原地帯から森林地帯に戻り、日が陰ってひんやりと感じる森の中を下って行くと、遊歩道ウォークのアメリカ人トレッカー達に出会った。14:40 駐車場に帰着。15:00 出発。16:40 トンパの町のウォールマートで買い物。19:00 モーターに入った。19:30、近くの公園で夕食。22:00 就寝。

6月27日(水)晴

トンパ --- ビショップ --- マンモスレイク --- ヨセミテ国立公園(泊)

5:30 起床、朝食。6:30 出発。ビショップの町を経て、9:00、マンモスレイクの町に入る。レイクポイントに立ち寄り、10:00 ヨセミテ国立公園へ向かう。ヨセミテには、2003年9月以来2回目。今回は充分時間があるので、世界のヨセミテをゆっくり観て楽しめそう。11:00 ゲートをくぐり、まずはビジター・センターへ。懐かしい～またここを訪れることが出来たことに感謝!! 自然が創りだした山・岩壁・河・湖・滝・森の大景観を車内やシャトルバスから眺めた。幾つもの展望ポイントで絶景を満喫した。

【ヨセミテ・バレー】

ハーフマン山、ワトキンス山、ライル山、ハーフドーム、ノースドーム、エルキャピタン、カテドラルロック等の岩壁、ヨセミテ滝、リボン滝、ブライダルベール滝、ネバダ滝、バーナル滝、ミラーレイク、トゥオルムミドウ高原、マリボサグローブの巨木等々まだまだ数多くの名勝、景勝のヨセミテ・バレーを一日ゆっくり満喫した。公園内の、安価なテントロッジに宿泊できた。大型テント内にベッドが4つと、木のストーブ付。どんなかなあ～と思ったが、テント内は広くて快適。トイレはないが、ちょうど外の真向かいにトイレ洗面設備があり良かった。申し訳ないことに、長さんは床で寝てくれることに～。外は寒いがストーブを燃やせば、テント内は温かくなりそうだった。公園内のマーケットで買い物し、今日はインスタント麺類がメイン。熊対策でテント内での飲食は禁止されているため、公園内の指定場所で夕食。寒かったり虫がいたりで落ち着かなかった。明日またゆっくりご馳走を食べよう。ストーブにも火がついた～おやすみ。

6月28日(木)晴

ヨセミテ国立公園 ---【マウント・ダナ(3,979メートル)登山】--- ビショップ
--- ビューティ(泊)

6:00起床、朝食。6:40、テントを出て駐車場へ。7:20、登山口駐車場着。7:40、登山口を出発。駐車場からすぐの所からレイクと草原と森林と山々。こんな風景の油絵が飾ってあるのを日本のどこでも見かける。レイクを横切り平坦な草原をしばらく行くと、森林帯に入り緩やかな登りとなった。急に前が開け、なだらかな草原状の丘に出た。遠く前方に岩山が突っ立っていた。草原の丘には小さな花が地を這うように咲き、広く大きく遠く視界が開け、蒼い空に、山も森も湖も砂漠の大自然パノラマも大きな箱庭の様に感じる。私達以外誰もいない至福の贅沢である。



マウント・ダナ山頂

岩部に取り付く。時々登山道は消え、石の上の歩きやすい足元を選びながらひたすら上に向かって登った。高度には順応出来ているので息苦しさは感じず快調だったが、石ゴロの急斜面を何度も見上げて「頂上はまだか〜」。11:10急に傾斜が緩くなり、石を積み上げた四角いスペースが見えた。山頂だった。細長い尾根状の山頂に立った時、真っ白い残雪と雲ひとつない蒼い空に360度の視界が広がった。眼下に赤茶けた周囲と対比的に、鮮やかなエメラルドグリーン色の広大なモナ湖が広がっていた。私達が歩いて来た草原

の丘や森林や湖、遙か遠くへ続く大地と霞む山々〜。今この地に立ち大パノラマを満喫出来る幸せを感じつつ〜風よけの四角いスペースに入ると、小さな金属製の箱があり、開けると帳面が入っていて、びっしりと英文でメッセージや名前が記されていたが日本語はなかった。私達も日本語で記帳した。強い日差しは有り難く、さすがに風は冷たい。軽い昼食の後12:10下山。岩ゴロを、眼下に見える草原の丘のトレースめざして下った。森林地帯に入ると、ヒンヤリと寒く感じた。

14:10、駐車場に戻った。14:30出発。15:30、ビショップの町のKマートで買い物後、ビューティへ向かう。2時間以上走っても景色が変わらないし、町もない離合の車もない直線道路ひと走り走って20:30ビューティの町着。あいにくモーターに空き室がなくスイートワンルームに投宿。部屋は暖かく、男2人は床でシュラフ。これもまた良し。

6月29日(金)晴

ビューティ --- デスバレイ国立公園 ---【マミーズ・トゥ(3,331メートル)登山】
--- ラスベガス(泊)

6:00起床、朝食。7:00出発。砂漠を切り裂く様に一直線に続く道路を、時速150キロメートル以上の猛スピードで走り、海拔19070フィート(60メートル)のデスバレイ国立公園へ。ゴールドラッシュの頃、西部を目指した多くの人がこの谷に迷い込み命を落としたことから「デスバレイ(死の谷)」と名づけられたと言う。火山地帯で、西半球では最も海拔の低い土地である。南北200キロメートル東西100キロメートル、長野県と同じくらいの面積で、年間降水量は約50ミリ、日本の平均の僅か3パーセントとか。ミュージアムに立ち寄ると館外の温度計は47度を指していた。乾燥しきった地面や空気は、さすがに熱くてたまらないが、陰に入ると嘘のようにヒンヤリ。

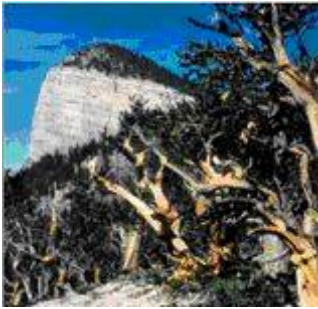


レインツリー

10:50マミーズ・トゥ登山口駐車場。針葉樹に囲まれた、どこにもあるような幅の広い道をジグザグに登る。木々の間から砂漠とネバダ山群が見渡せるが、この単調な登り道はどこまで続くんかいなあ

~と飽き飽きした頃、12:00広場に太い大木が現れた。レインツリーと言う。大木の右奥に白く角ばった岩壁が聳え立っていた。マミーズ・トゥであった。上部だけ髪の毛のように木の緑のある白い巨大な絶壁で登れそうには見えなかった。マミーズ・トゥとは「ミイラの足元」と云い、名前がよろしくない。

昼食後12:30出発。深い森の中の細い道をトラバースしながら少し下ると、左に白い岩壁が現れた。ここを登るらしい。登山道らしきものはないが、少しガレているところを登って行くと石を積んだケルンが前方に幾つもあり、これを辿って行けば山頂に行けるのが分かった。大きな岩壁に、



マミーズ・トゥ

ちょうど目の高さあたりに50センチメートル幅の四角い穴があった。中には何もなかったが何のための穴？人工的に作ったとしか思えないのだが？ルートの確認には良い目印となる。さらに急登になり上部に木が見えてきた。山頂に近づいたようだ。木の間を喘ぎながら登り、再び石岩になったところを一気に登り切ると前がパーと開けた。14:40、平らな石を敷き詰めたような狭い山頂に立った。ここも360度の展望。ちょっときつい登りやったけどなあ~。今回の最後の山 計画通りパーフェクトに登れた。

15:15下山。足元を注意しないと危ないくらいの急坂を下る。こんなところ登ってきたんかいな~。みんなよく登った。16:30、レインツリーに戻り、マミーズ・トゥを見上げて「それなりにきつい登りやったなあ~」と振り返り、ゆっくり休憩した。

17:20、駐車場着。17:30、ラスベガスへ向け出発。19:00、ラスベガスの街に入った。ホテルに落ち着いた後、ネオン輝くラスベガスの街を散策しながら、ビッフェ・バイキングで満腹の夕食。大自然からネオン輝く歓楽の街 あまりの落差に、ラスベガスの夜を楽しむことなく22:30ホテルに戻り就寝した。

6月30日(土)~7月1日(日)

ラスベガス --- ラスベガス空港 --- シアトル空港 --- 成田空港

5:00起床、朝食。6:00ホテル出発。レンタカーを返却し7:00バスで空港へ。8:00搭乗手続き。9:15フライト シアトル空港へ。15:45フライト 成田空港へ。7月1日(日)18:10成田空港着。19:00成田からJR品川駅へ。22:30阪急夜行バスで京都へ。7月2日(月)6:00京都駅到着。

長さんは、ラスベガスからの全行程のドライバーをひとりで勤めてくれた。ちゃんと地理を把握していて、行き先を迷うこともなく凄いです。彼女達は、毎日美味しいアメリカン・ディナーを考え作ってくれました。ハードスケジュールやったけど、みんな「タフ」でした。私はというと、山に登った後は、どこへ行っても食って、ビールばかり飲んでいました。全て計画通りパーフェクトでアメリカ大陸の自然を満喫できました。皆さんお世話になり、ありがとうございました。